

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（平成30年度・第6回）議事概要

日 時 平成30年10月10日（水）14:00～16:00

場 所 市役所3階 3-3会議室

出席者 まちづくり協議会 代表19人、代理1人
市民交流部 古家部長、上田室長、新城課長
市民協働推進課 吉岡課長、山田係長 他
スポーツ振興課 中村係長
関西総合研究所 宮本 他
OM環境計画研究所 大森 他
宝塚NPOセンター 馬越
傍聴6人

議事概要（要旨）

- 1 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（平成30年度・第5回）議事概要の確認
各まちづくり協議会代表者により、宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（平成30年度・第5回）議事概要の確認が行われ、承認された。なお、以下の点について修正があった。

【修正点】

- ・4ページ12行目
⇒「現在の市の総合計画及びまちづくり計画づくりを」を「現在の市の総合計画の内容や今後のまちづくり計画を」に修正。
- ・4ページ16行目
⇒「住民の思いを押さえた上で、10年間のまちづくり計画」を「住民の思いを踏まえた上で、新たな10年間のまちづくり計画」に修正。

- 2 地域ごとのまちづくり計画の見直しについて

(1) 取組状況・予定の報告

【すみれ】

- ・前回から進捗変化なし。
- ・アンケートで具体的な目標が挙がってくると思うが、安心安全などの漠然とした目標をどのようにまとめていくかという点が難しい。
- ・エイジフレンドリーシティの講演会で参考になることがあった。

【安倉】

- ・前回から進捗変化なし。
- ・10/21のふれあい運動会以降に、各住民に対するアンケート、事業者向けのアンケートについて計画していく予定。

【西山】

- ・9/23に第3回策定委員会を実施。
- ・今後、まち歩きを予定している。10/13、10/28、11/10の3回に分けて、野上、宝梅、千種地域を歩く。その結果を踏まえて、第4回の策定委員会を11/25に予定しており、まち歩きの結果報告等を行う予定。

【宝小】

- ・会議は第4土曜日。第1回は動機づけ、第2・3回は課題を中心に、第4回に入ってビジョンというのに少し入った。今後は、進めながらどういうふうに展開させていくかを考えたい。

【小浜】

- ・人権文化センターや小浜小学校などに行き、小浜小学校区の良いところ、気になっているところなど色々な視点から皆様の話を聞いて集約する予定。参加者は50人くらいを予定している。
- ・小浜小学校の5・6年生に配布するアンケートが完成し、10月中旬に配布する予定。
- ・保護者用・地域の皆さん用・事業所用のアンケートも完成し、誰がどこを担当するかまで決まっている。

【すえなり】

- ・9/23に第1回の見直し委員会を実施。第一分科会、第二分科会に分ける予定。
- ・まちづくり基本条例についても説明を実施。まちづくり基本条例を考えながら地域の基本目標も作成していかなければならない。
- ・10/20の地域福祉ネットワーク会議において、福祉部分の計画につながるような議論をする予定。

【中山台】

- ・9/23に第3回の見直し会議を実施。アンケートの方法や対象者をどうするかという点に関する意見が多く出た。10/15までに、それぞれの担当者からアンケートの方法案を出してもらった上、集約し、10/28に決めていく。アンケートの取り方は非常に大事だと考えているので、アンケートに関する部分で時間がだいぶ取られると思う。

【長尾】

- ・10/9現在でアンケートの回収は、300件中205件で約68%の回収率。10月中旬にアンケート結果をまとめて、11月から検討に入っていく。

【一小】

- ・評議委員会で配布したアンケートを回収して、内容を整理した。
- ・各自治会の現在の活動内容・行事内容のデータもまとまっている。
- ・基本方針を考え、話し合いを始めたい。
- ・12/16に光が丘中学校の生徒会と座談会を行う。

【山本山手】

- ・今年度は、課題の抽出を中心に行っていく予定。
- ・関西総研の協力を得てアンケートを作成した。11/3に配布予定。配布方法や回収方法については今週末検討予定。スマートフォンでも手軽に回答できるようにしている。
- ・まちづくり計画実行委員会を立ち上げ、今週末に第2回の会合を開く、今後は実行委員会を中心に活動し、今年度抽出された課題の精査であるとか過去の課題を並行して整理しながら進めていきたい。

【売布】

- ・まちづくり計画のアンケート調査をお願いした。小学校4～6年生及びその保護者に配布済み。今週中に回収できる予定。
- ・自治会長会議を11/24に実施予定。懇談会という形で設定して、出た意見をまちづくり計画に盛り込んでいきたい。

【末広】

- ・アンケート（回答期限9月末日）を実施した。配布部数は210部。配布対象は、PTA、子ども会、自治会などの関連団体。現時点の回収率は40%。このアンケート結果を踏まえて、今後の方向性を決めたい。

【西谷】

- ・全住民の意識調査に基づいた中長期の将来ビジョンがほぼ完成した。ビジョンには、構想や具体的な政策目標・構造方針なども列挙しているので、これをまちづくり計画に落としとしていく。また、ビジョンづくりの中で検討できていない福祉や教育の分野などもフォローする形で、5年間のまちづくり計画に落としとしていく。この作業を今月から進めていく。

【光明】

- ・前回から進捗変化なし。

【高司】

- ・高司小学校の6年生から、先生を通じて、地域に対する思いを話したいという依頼があったため、聞く形かアンケートを通じてなのかなどどういう形になるかはまだ決まっていないが、意見を出してもらおう予定。
- ・10/22に、福岡から高司まち協に視察があるため、他地域から見た意見を聞きたいと考えている。

【仁川】

- ・毎月1回委員会を開いている。6つの部会のうち、5つの部会はアンケート調査が出そろっている。今年度中に集約し、ある程度の結論を出していきたいと思っている。

【良元】

- ・各部会活動の課題の洗い出しをやっている。10年先を見据えると同じマンパワーで今のような活動ができるかはまったくの不透明。減らしていくところ、増やしていくところ、その重点を考えていかないといけない。こういったことを含めて、どう10年先を見ていくか及び課題をどう整理していくかということを現在やっている。

【ひばり】

- ・第2回の全体の計画会を実施。
- ・インフラ、防犯・防災、イベントという3つの分科会に分けていたが、新しく福祉も加えることとなった。
- ・既存の3つの分科会でそれぞれ議論を行ってもらっており、それを基に報告を受けている。

【ゆずり葉】

- ・まちづくり計画のチェックは先月で完了。
- ・意見集約を重ねて計画の見直し素案を作成した。これを基に10/7に福祉ネットワーク会議を開催すると同時にまちづくり計画見直し会議を行った。地域カルテとの整合性の確認と、討議で出た新しい追加項目を入れて、次回はまちづくり計画の原案にしたいと考えている。
- ・将来像の目標は5項目で具体的計画は40案件となった。

【美座】

- ・防災が大きなテーマ。今年災害が頻発したため、市の総合防災課にも来てもらい、9/21に緊急の防災対策委員会を行った。将来に向けた問題があるので、課題や何に取り組むかを整理して今後まとめていきたい。
- ・アンケートはしていかないといけないと考えている。見守り、環境の問題について、自治会や老人クラブ、事業所など各団体ごとにアンケートをしたらどうかという提案をいただいた。子育て世代の方についても、まちづくり協議会がどういうものかご存じない方もいるため、その辺りの説明も加え、「何を期待しますか」などのアンケートを取ってきたい。また、小中学生にも子どもなりの意見を聞いてみたらどうかと考えている。加えて、高齢者向けのアンケートを取り、これらを集約した形でまとめていきたい。
- ・国の施策の関係で地域包括支援システムというのが今動いてきているが、行政が財政逼迫しているため、本来行政がやるべきことを地域に押し付けてくるんじゃないかという危惧もある。これからのまち協の活動として注意する必要があると考えている。

(2) 意見交換

意見交換の内容については以下のとおり。

- ・まちづくり計画見直し委員会を開いた際、ある方から、現行のまちづくり計画は結果的に何もできていないんじゃないか、一生懸命作った割には予算もつかないしという意見があった。他のまち協でもこのような意見は出ていないか。これが一つの地域の壁になっており、そのため、私は委員はやらないと言う人もいる。一生懸命汗水たらして時間を割いて作ったけれども結局実現できていないんじゃないかという意見がある。地域自治推進担当次長が地域の会議で市の心構えというものが出てくるのか。地域自治推進担当次長から市のメッセージをちゃんと伝えていかなければいけない。庁内で詰めていく

- 中において、市としても、真剣に取り組むところについては予算付けしますよというメッセージが担当者から出ればちょっと変わってくるのではないかと思う。
- ・計画を作ること以上に実行が大事。行政が平成20年にちゃんとしたまちづくり計画進行管理の仕組みというのを作っている。それを使われていないということだと思う。今度のまちづくり計画も、計画を作ることだけでなく実行していくことも考えながらやっ
ていかないといけない。私たちのまち協はそういう仕組みを使ってやってきていた。
 - ・まちづくり協議会側がまちづくり計画の進捗管理をやるというのも一つあるが、元々は、第6次総合計画に載せるということから、行政が今回のまちづくり計画を見直すというテーマを新たに作った。よって、過去の資料があるのであれば、行政がそれをベースに進捗管理を進めていけば我々も同じ土俵で行動ができるのではないかと思う。行政の方からもそういう話が出ていない。こういう大きなテーマを固めたら、行政がリーダーシップを取ったり、色々な形でアドバイスするなどしてもらわないといけない。行政が会議に参加した後、持ち帰ってどう処理されているのか。フィードバックされない。行政が発信した内容についても、進捗や結果等の報告がない。行政がアドバイスをしないと、こちらは一生懸命やっても不安感などの気持ちが常についてまわる。
 - ・今はとにかく計画を作っているわけなので、進捗管理をするという意見が出たところで、行政なり我々がやらなければならないと提案していけばよい。
 - ・地域に対して担当次長から市側のメッセージをきちっと発してほしい。地域の者が言っても信用できませんとなる。市も市の基本姿勢を各まち協の委員会の中で出してもらくと、住民も「今回は違うんやな」という意気込みになるんじゃないかなと思う。一度失敗しているの、現段階の入口のところで、地域の一部でやっても無駄だと言う人がいる。この人たちを前向きにしたい。
 - ・一度失敗したというところが良くわからない。まちづくり協議会で計画を作っても、各自治会又はまち協の各団体で実行してきているところもずいぶんあると思う。
 - ・大きく分けると、地域住民が主体となってやるところと、住民と行政が半々でやるところと、地域の要望として行政側がやるところがあるが、行政側がからんでいる部分が進んでいない。
 - ・ハードの面は行政が主になってやっていただけたらと思うが、細かな住民本意のまちづくりという基本に何ができるかを考えていかないといけないと思う。行政がしてくれないから我々は何もしなくていいんだという考えではなく、地域の皆さんでまちをどういうふうにすれば活性化していくか、住民のコミュニケーションがうまくいくかなどの基本を重視していきたい。
 - ・行政といえどもそれぞれの地域に来ている職員はそれぞれ違う人である。市の姿勢がそれぞれの職員を通じて同じ状態で各地域のまち協に伝わってこないといけないと思う。一貫して同じ姿勢ではっきり示してもらえたら、皆が同じ状態で進めていけると思う。それぞれの職員によって違うと、ずっと曖昧なところできてしまう。受け止め方も変わってしまう。
 - ・市が指導するという事は避けた方が良く思っている。市からの口出しはあまりしない方が良く。各まち協の主体性があり、地域の特性もあってやり方が違うのも当たり前である。大きな理念はあってよいが、細かなやり方まで市がああしなさい、こうしなさいというのはちょっとおかしいのではないかと思う。
 - ・まちづくり計画そのものは、無理なく伝わっていくのが大きな柱ではないかと思う。12,3年前作ったときも、例えば、犬猫の去勢の問題をやっている人たちがいることを皆に伝えようとか、核家族化の影響で近所の挨拶運動や声掛けをすることがおろそかになっていることは問題だからこの運動などを心新たに頑張ろうとか、省エネをみんなで考えようなど無理なく自分たちでできることをする。それから道路など行政にやってもらわないといけないことでも、どういった道路を作ってほしいなどの意見を入れた形でやっていく感じかなと思う。行政に期待してはいけないが、期待するところは期待し、きちんと伝えていくためのネタになるのではないかと思う。そういうものをできるだけ地域の中で共有して、できるだけまとめていく感じかなと思う。

- ・他のまちづくり協議会で、外国人や高校生・大学生の意見を聞くところはあるか。
- ・コミュニティに外国籍の人が70数名いる。とある福祉施設では、働きに来る外国人が増えていると聞いている。外国人に対してアンケートを取る方法も考えられるが、コミュニティは過渡期にあるのではないかと考えている。この1,2年で新規の家族が新しく入ってくる可能性が増えている。ある地域では65歳以上はざっと50%。その代わり、数年前にできたマンション群は若い方ばかりである。そういう方がコミュニティの中の小学校に入って、少子高齢化の中で学校が成り立っている。今、時代が変わり目に来ているのではないかと考えていて、住めないと思った高齢者は下に降りていかれるかもしれない。10年先を読むと、構成比は現時点から変わってくるため、アンケートの取り方がいかに大事かという点について検討している。

⇒市：計画見直しについては、地域主体で進めていただきたいというのが基本的な市のスタンスである。市はできるだけ効果的にサポートさせていただきたい。そのために地域自治推進担当次長が各地域に出向かせていただいているというように受け取っていただきたい。各担当次長の認識については、個々で若干の違いが出てくるところはあるかもしれないが、基本的な認識については、最初に研修を行って統一を図っている。今の時点では、見直しに向けて地域の意見・課題をいかに集約するかという話が地域での主な議論になっており、今の時点での担当次長の出番はそんなに多くないと考える。ただ、今後、具体的な取組などを検討していくにあたっては、協働とする部分とか市が主になってする部分のところはかなり議論を重ねないといけないなと思っている。計画の実現性の部分の議論の段階になると、担当次長との意見交換は密になってくると思う。

(3) アンケート様式の提供について（依頼）

座長より、次回の代表者交流会で情報共有するため、各まちづくり協議会に対し、地域ごとのまちづくり計画見直しに関するアンケート様式の提供について、配布資料に基づき、依頼を行った。

3 まちづくり協議会代表者交流会（ワークショップ）について

市民協働推進課より、配布資料に基づき、同交流会（ワークショップ）の参加に係る回答方法について説明を行った。

4 第14回宝塚ハーフマラソン大会の従事ボランティアについて（依頼）

スポーツ振興課より、配布資料に基づき、同ボランティアについて依頼を行った。

5 市民協働推進課からのお知らせ

下記(1)～(5)について、資料を用いるなどして周知した。

(1)まちづくり協議会代表者の個人情報の第三者への提供について

(2) FM宝塚出演予定

平成30年10月24日（水）中山台コミュニティ

(3)市民と市長のテーブルトークについて

(4)宝塚市手話言語講演会について

(5)市民活動促進支援事業について

6 その他

市民協働推進課より、地域ごとのまちづくり計画見直しに係るアンケート様式の提供方法について、確認を行った。

7 今後の日程

次回日時：平成30年11月14日（水）18：30～20：30

場 所：市役所3階 特別会議室